

考える人



やっていた「コロナでお店もやっていないからエピソードが全然生まれません」というような話を思い出しました。

さて、本題ですがこのような状況下で改めて感じたことを記していこうと思います。

「おうち時間」なんて誰が言ったのか、コロナ禍でよく聞く言葉があります。実際、家にいる時間が増え、家族と接する機会も増えました。それをストレスと感ずるのか、幸せと感ずるのかは人それぞれですが、私自身は後者でした。

幸せというよりは色々な角度から自分と家族を見つめ直す事が出来ました。会話をする時間も増え、相手が考えている事や感じていることを、反対に私の思いや展望をお互いに伝えられました。おそらくコロナ前ではこのような会話はめんどくさいのか照れ臭いのか、言わなかったでしょう。そして会話する前と後では考え方も変わり大きな一歩を踏み出す決意となりました。他にも色々考える時間が自然と増えていき、お酒を飲みながら考え込んでいると口の締まりが悪くなり、口角から汁が滴り落ちるなんてこともしばしば。そうすると「ママ！パパのお口からオヨドが出るよ」と子供は大興奮で、妻からは冷たい視線……。というか、オヨドって何だよ。せめて正しい日本語を使いなさいよ。

話は逸れましたが、コロナの期間中は「死」に対しても考えさせられました。連日コロナで何人の方が亡くなったと報道されています。

はじめに、今回デンタルニュースの依頼を受け、お断りをさせて貰ったのですが前回私が担当してから5年経っている、というなかなかのパワーワードを言われたので担当させて頂く運びとなりました。

現在、東京は三度目の緊急事態宣言の真只中（執筆当時）であらゆる行動が制限され一年以上になります。本来ならゴルフへ行つて、釣りへ行つて、旅行をしてと今まで当たり前だった日常が出来なくなっています。家庭にも医院にもコロナを持ち込まない為と自分に言い聞かせて、あらゆる誘惑を断ち切っている状態です。そんな中、何を書けばいいのでしょうか。「歯科以外の事でも何でも大丈夫ですよ」と優しい言葉を貰うのですが、今の私にとってはかなりの絶望的な言葉で、むしろ「このテーマで書いて下さい」と言われた方がいかに楽だったかと思えます。先日テレビで

ここまでコロナ禍における口腔衛生の新概念についてお話ししましたが、一概に歯磨きと云つても単純なものではありません。知らずに身についた癖や歯並びの特徴、お口の環境によって磨くポイントは様々です。ふじさき歯科医院では定期検診を行つており、お掃除だけでなく歯磨きのアドバイスにも重点を置いております。それぞれの患者様へ担当の歯科衛生士が付き、二人三脚でより良い口腔環境になるよう努めております。10年以上担当させていただいている患者様も多く、皆さまほとんど歯磨きが上達し、ピカピカになつていく事に私もやりがいを感じています。「どこの歯科医院に行つても褒められますね」とお声掛けさせていただく患者様も大勢いらして、皆さまと一緒に歩めた事が歯科衛生士として大変誇らしいです。そして当院では、65歳以上でご希望の方や症状が疑わしい方には保険適応で嚥下（飲み込み）力の測定や、トレーニングのアドバイスなど、誤嚥性肺炎の予防にも努めております。

「お口は健康の入り口」です。清潔なお口で、健康な歯で、よく合う入れ歯で、ご飯を美味しくモリモリ食べられたら病気なんて吹っ飛んで行きそうですよね。ですが「病気の入り口」という反面もあります。その入り口で細菌を大繁殖させていたら元も子ありませんよね。ぜひ歯のお掃除とメインテナンスに当院へ足を運んでいただけたら幸いです。

歯科衛生士 君島